

令和3年度 事業計画

令和3年4月1日～令和4年3月31日



学校法人 杏林学園

目 次

1 教育の質向上に向けた取り組み 1

学部・研究科・教育

[医学部]

- ・医学教育分野別評価受審の過程で明らかにされた改善必要事項への対応
- ・不測の事態を考慮した教育システム・体制の構築
- ・教育関連情報の収集・分析の充実及び分析結果の活用（継続）

[保健学部]

- ・効果的な遠隔授業の実施
- ・データサイエンス分野の教育体制の構築

[総合政策学部]

- ・「Withコロナ」の時代において質の高い授業を提供する
- ・データ・デザイン・プログラム等の新設を含む新カリキュラム導入に向けた準備
- ・グローバル教育拡充に向けた検討
- ・入試改革の検討と実施

[外国語学部]

ポストコロナ教育の質向上に向けた取り組み

- ・成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立
- ・入学者の質向上と収容定員の管理
- ・学力の三要素を測定する入学者選抜の実施と入試改革
- ・学生の満足度向上
- ・教員のワークライフバランスの改善

[医学研究科]

- ・教育体制強化のための取り組み
- ・論文指導体制の見直し

[保健学研究科]

- ・効果的な遠隔授業の実施
- ・臨床心理学専攻大学院のカリキュラムの充実
- ・大学院学生の研究指導の充実
- ・大学院入学志願者数の増加

[国際協力研究科]

ポストコロナ教育の質向上に向けた取り組み

- ・博士前期課程への進学者増加のための取り組み
- ・国際交流の更なる促進
- ・大学院生のFD活動の推進および外部資金獲得の奨励
- ・入学試験の見直し

[高大接続推進室]

高大接続・高大連携の継続・推進

- ・アドバンストプレイスメントの継続
- ・日英中トライリンガル人材育成に資する教育機会の提供
- ・APラウンドテーブルの継続開催
- ・ライティングセンターの活用

[国際交流センター]

国際交流・グローバル人材育成の推進

- ・学生の海外留学・研修の促進

- ・協定校外国人留学生受入れのサポート強化
- ・グローバル人材の育成

[図書館]

- ・施設・設備の整備と有効活用
- ・学習・教育支援

学生生活支援 6

[医学部]

学生支援業務の整備と円滑な運用

- ・三鷹保健センターの機能強化・高等教育の修学支援新制度への対応

[保健学部]

- ・入学後の就学継続支援体制の充実

[学生支援センター]

学生支援センター業務の整備と効率的な運用

- ・井の頭・三鷹両キャンパスの公認クラブ・同好会の連携と統合へ向けての調整
- ・井の頭キャンパス本部棟2階図書館を利用した総合学生支援事業推進
- ・学生相談室業務の人的拡充
- ・高等教育の修学支援新制度への対応
- ・コロナ禍における学生のボランティア活動等の学外活動の促進と評価
- ・修学継続支援窓口の設置

心身の健康支援 8

[三鷹保健センター]

健康保健活動の質向上に向けた取り組み

心身の健康支援

基本方針

- ・健康診断
- ・ウイルス抗体検査およびワクチン接種
- ・メンタルヘルス
- ・新型コロナウイルス感染症予防
- ・健康保健業務の円滑化

[井の頭保健センター]

心身の健康支援

基本方針

- ・健康診断
- ・ワクチン接種
- ・外傷・疾病への対応
- ・メンタルヘルス対策
- ・啓発活動
- ・新型コロナウイルス感染症対策

2 研究体制の強化 10

[医学研究科]

- ・研究環境の整備を目指した取り組み

[保健学研究科]

- ・大学院学生の研究指導の充実

[国際協力研究科]

- ・国際交流の更なる促進
- ・大学院生のFD活動の推進および外部資金獲得の奨励

[研究推進センター]

研究活動の活性化

- ・全学的な研究体制の構築・研究の広がりへの取り組み
- ・科学研究費補助金の獲得のための支援
- ・研究倫理教育充実の施策の実施
- ・研究環境の活用・整備
- ・産学官連携の推進

[男女共同参画推進室]

女性・若手研究者研究活動支援

- ・「研究支援員制度」の充実化・「研究支援員制度」の充実化
- ・研究力向上のためのセミナー等の開催
- ・ライフイベント、ワークライフバランスに関する情報提供・研究および相談体制の強化
- ・女性・若手研究者に対する支援と裾野拡大の継続
- ・三鷹市との協働による女性研究者支援
- ・女性研究者を積極登用する人事計画

[図書館]

- ・施設・設備の整備と有効活用
- ・講習会の実施と質の向上
- ・機関リポジトリの構築
- ・ILLを活用した支援強化

3 優秀な学生確保 13

[入学センター]

井の頭・三鷹キャンパスを軸として入試広報・入試実施の推進

- ・首都圏の高校に注力し、志願者獲得を図る
- ・広報・企画調査室と連携を強化し、業者発行の刊行物や SNS 等の Web 企画の有効活用を図り、受験者（高校 1・2 年生を含む）・保護者及び高校教員へのアプローチを強化し、総志願者数（令和 2 年度実績）を更新する
- ・オープンキャンパス・進路相談会等の充実を図る
- ・有効的な入試方法を提案し、入学試験の円滑な運営を図る

4 キャリア支援の向上 14

[キャリアサポートセンター]

「ポスト・コロナ」時代に向けた就職支援の見直し強化

- ・「より早く」学生の意識とスキルの向上
- ・「より深く」教員や企業との連携
- ・「よりきめ細かく」学生への支援と指導・キャリア教育・就職支援の見直し強化

5 情報基盤の整備 15

[総合情報センター]

With コロナ時代の授業支援とセキュリティ規程の整備

- ・情報セキュリティ対策

- ・授業の円滑な運営に向けた学内 LAN の回線増強と学事システムの最新化
- ・With コロナ時代に即した学内 LAN 回線の増強と学事システムの最新化
- ・キャンパスリニューアル工事への対応（松田進勇記念アリーナ・新棟等）
- ・ワークフロー（電子決裁）へのアプローチ

6 地域交流活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

[地域交流推進室]

- ・コロナウイルス状況を踏まえた新たな活動の推進
- ・杏林 C C R C 研究所の発展的改編
- ・連携自治体内における産学官連携活動の強化
- ・「子育て支援・教育支援」連携体制の構築

7 医療体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

[医学部付属病院]

- ・健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献の促進
- ・健全な病院経営と診療内容の質的向上
- ・院内感染防止対策の強化と医療安全の推進
- ・職員の勤務環境の改善と人材育成の推進
- ・地域医療機関との連携強化[病院各部署事業計画]

8 学園運営体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

大学・病院を支える人材の確保・育成

- ・人材の確保(職員)
- ・適正な人員配置(職員)

働き方改革の促進

- ・教職員の健康面へのサポート強化
- ・休暇および時間外労働時間の法令遵守
- ・事務部門の生産性向上のサポート強化

広報・企画調査室事業計画方針

- ・広報戦略の継続的強化とコロナ時代の新機軸推進
- ・ウェブ媒体の継続的な改善と有効活用
- ・セキュリティ強化を含むネット環境の基盤整備
- ・あんずネットの継続的整備
- ・新型コロナの時代と共存する広報戦略の推進
- ・新たな方式による地域貢献・開かれた大学への取組み

9 財務体質の強化・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

財政基盤の健全化

1 教育の質向上に向けた取り組み

<学部・研究科・教育>

[医学部]

医学教育分野別評価受審の過程で明らかにされた改善必要事項への対応

医学教育分野別評価受審（平成30年10月）の結果、令和2年3月26日付にて「認定」の評価を得たが、その要件として、受審の過程で明らかとなった改善必要事項につき計画的に改善を進め、その進捗状況を定期的に報告することが求められている。この作業を通じて、当学部の教育環境の改善を図ることを目的として組織した「教育改善委員会」において、改善必要事項の整理及び改善実施計画の策定を行う。

不測の事態を考慮した教育システム・体制の構築

今後も繰り返し発生することが想定される感染症の蔓延や自然災害など、不測の事態下においても学生の教育を継続することが可能となる講義・実習等のあり方とともに、そのために必要とされる体制の構築についての検討を、教務委員会を中心として行う。

教育関連情報の収集・分析の充実及び分析結果の活用（継続）

医学部では平成28年にIR室を設置し、入試から在学中の成績評価、医師国家試験、さらには卒後の活動状況に至るまで、広く医学教育の改善に資すると考えられる諸データの収集・分析を行ってきた。引き続き調査・分析内容の充実を図り、その成果を医学教育の質向上に還元してゆく。

[保健学部]

教育内容・方法

効果的な遠隔授業の実施

COVID-19 感染症蔓延で実施を余儀なくされたオンラインあるいはオンデマンド授業はその利便性と学生のメリットもある一方、実際の授業アンケートの結果では学生の満足度の低さも問題視されている。2021年度は対面授業を原則とするものの、多人数あるいは横断的・基礎分野の座学においてはオンライン・オンデマンド授業の利点を生かすものの、学生の満足度の高い遠隔授業を実施するための整備を行う。また、各教員には効果的で満足度の高い遠隔授業の方法についてFDを通じて技術向上を図る。

データサイエンス分野の教育体制の構築

近年、多くの分野でビッグデータ解析、AI技術、ロボット技術が応用されていて、医療・保健の分野でも現場のニーズとして、それらに関する知識・技能が求められるようになった。こ

のニーズに対応すべく、データサイエンスを専門とする教員を保健学部に新規採用し、時代に即した学生教育に着手する。

[総合政策学部]

「Withコロナ」の時代において質の高い授業を提供する

令和2年度の経験を踏まえ、新型コロナウイルスの感染予防をしつつ、対面、オンライン、ハイブリッド型等の提供方法を適切に組み合わせて、より多くの学生が満足できる授業を提供する。

データ・デザイン・プログラム等の新設を含む新カリキュラム導入に向けた準備

令和4年度から新カリキュラムを導入すべく準備を行う。ビジネスの現場において情報系のスキルを活用できる人材の育成を目指したデータ・デザイン・プログラムについては、令和3年度入学者も履修できるように対応する。また、地域社会での実践的な学びの機会を提供するコミュニティ・ベースド・ラーニングをスムーズにスタートできる様に準備をする。

グローバル教育拡充に向けた検討

「With コロナ」の時代におけるグローバル教育のあり方を検討するとともに、令和4年度の新カリキュラムにおいては、改良されたGCP（グローバル・キャリア・プログラム）を適切に提供できるように準備する。

入試改革の検討と実施

令和3年度入試の経験を踏まえ、総合選抜型入試と推薦入試のあり方について検討を行う。特に、総合選抜型タイプⅢ（スポーツ型）に代わる入試と総合選抜型タイプⅡ（グローバル型）の選抜方法について検討し、実施する。

[外国語学部]

ポストコロナ教育の質向上に向けた取り組み

成果の測定とカリキュラム・マネジメントの確立

新カリキュラムの実施に伴い、アセスメント・プラン及びポリシー策定に向け詳細を調整し、教育の質保証を推進する。新型感染症の動向を考慮しながら、教育の質を保証するため、対面授業とオンライン授業の兼ね合いを取っていく。

入学者の質向上と収容定員の管理

変更した編入生定員を充足させる。新カリキュラムを周知し、前年度を上回る受験生獲得に努める。

学力の三要素を測定する入学者選抜の実施と入試改革

学力の三要素（「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」）を踏まえ、多面的・総合的に入試全体の選抜方法・問題を継続的に検討・実施する。

学生の満足度向上

特に「学生相談・支援の充実」、「学生間交流機会の創出」、「学生・教員間の交流機会の創出」「専門教育の充実」に注力する。

教員のワークライフバランスの改善

教員の仕事量を示すポイントシステム構築のため、教員一人ひとりの実態を把握する。

[医学研究科]

教育体制強化のための取り組み

- ・研究指導體制の更なる強化を目指し、関連専門領域の教員の参画による指導補助体制を構築する。
- ・社会情勢の如何にかかわらず学びが継続できるような教育体制を目指すため、講義・研究指導のあり方についての検討を開始する。

論文指導體制の見直し

- ・標準修業年限内での学位取得率向上を目指し、引き続き論文指導體制及び審査体制の見直しを行う。
- ・中間報告会および研究進捗状況報告書等のより積極的な活用により、研究科全体として研究・論文指導を支える体制を構築する。

[保健学研究科]

教育内容・方法

効果的な遠隔授業の実施

COVID-19 の感染予防として、従来型の対面授業の教育体制を見直し、ICT 技術を最大限活用して遠隔授業及び学生間双方向対話（ZOOM と Teams 等）を促進する。また、学内における実験・演習に関しては、科目責任者または指導教授に FD・SD を通して最新の COVID-19 に関する知識を教示し、感染予防対策を周知徹底する。

臨床心理学専攻大学院のカリキュラムの充実

2022 年度に入学定員 25 名、収容定員 50 名の博士前期課程の開講が予定されている。カリキュラム内容の概要は決定されているが、その精査を行い、とくに円滑な臨床実習を行うべく、実習施設への説明とお願いを徹底する。

大学院学生の研究指導の充実

医学研究科と連携した学術講演会への参加を促進する。定期的なセミナーに関しても、オンライン配信・オンデマンド配信により活性化させる。教員側の教育方法・研究支援策として、定期的に FD・SD を開催する。また、学術論文執筆セミナーの開催を検討する。

学生の受け入れ

大学院入学志願者数の増加

学部の卒業生が大学院入学するに際して従来、入学金を徴収していたが、これを廃することが決定された。これを契機に学部卒業生の大学院入学増につなげる。また、2022年度に臨床心理学専攻の博士前期課程の大学院が開講することとなったことで公認心理士の国家試験受験資格が与えられることになる。これを広報して入学センターと協力して、大学院入学志願者のみならず、学部の入学志願者増加につなげる。具体的にはホームページおよびオープンキャンパス等でアナウンス、また高校説明会においても学生募集を行う。

[国際協力研究科]

ポストコロナ教育の質向上に向けた取り組み

博士前期課程への進学者増加のための取り組み

新型コロナウイルスのために留学生の数が大幅に減少した。より多くの日本人学生獲得のため、本学の学部生が内部進学する場合の大学院入学金の無償化を実施する。また、大学ホームページを随時更新して勉学に励む学生を紹介する等、外部への広報活動を活発に行う。

国際交流の更なる促進

令和2年度に予定していた海外協定校への短期訪問や研究交流の検討会は新型コロナウイルスのために実施できなかったため、ZOOMでの開催等の代替案を用いて実施する。

大学院生のFD活動の推進および外部資金獲得の奨励

キャンパス内で開催しているFDプログラム、および研究のための奨学金に対する大学院生の意識を、対面授業やZOOMを用いて向上させる。

入学試験の見直し

筆記式試験を見直し、専門分野の問題を多く設定した。宣伝方法を工夫し、より多くの受験生に試験内容を変更したことを周知していく。

[高大接続推進室]

高大接続・高大連携の継続・推進

アドバンストプレイズメントの継続

アドバンストプレイズメントを継続して行い、高校生向けに春・秋学期授業を開放する。高校と大学の時間割を考慮して、科目の開講時期を通常期から夏季・春季休業期間に重点を置き、夏季・春季集中科目を充実する。

アドバンストプレイズメントの学外普及

単位互換協定を締結している桜美林大学、共愛学園前橋国際大学、創価大学と引き続き連携を行い、制度の社会的普及を図る。

日英中トライリンガル人材育成に資する教育機会の提供

日英中トライリンガル人材育成のため、本学の授業を特別聴講として高校生に開放する。また、IELTS対策講など留学資格条件に課せられる試験対策講座を高校生に開放し、グローバル人材育成を推進する。

A P ラウンドテーブルの継続開催

A P ラウンドテーブルを開催し、グローバル人材育成を共通目標とする高校との意見交換、連携強化を図る。教育内容や教育方法、コロナ禍での教育現場の現状について話し合うとともに、高大接続改革について建設的な意見交換を行う。

ライティングセンターの活用

長期海外留学において必要とされる英語ライティング力を養成するために、ライティングセンターを在学生だけでなく、高校生にも開放する。センターの運営において、対面による指導体制のほか、webを活用した遠隔指導を併用することで、利用者へのサービス向上を図る。

[国際交流センター]

国際交流・グローバル人材育成の推進

学生の海外留学・研修の促進

- ・相互利益となる海外協定校を開拓し、新規協定を結ぶ。
- ・中国語圏と英語圏の大学で交換留学枠を増やす。
- ・英語圏以外の国（中国、ベトナム、イタリア、マレーシア、タイ等）において英語で学習可能な留学・研修プログラムを提供する。
- ・海外留学・研修プログラム、インターンシッププログラムを新規に開発する。
- ・留学の学内手続き手順を精査し効率化を図る。

協定校外国人留学生受入れのサポート強化

- ・新型コロナウイルス感染防止に対応した留学生寮の運営を行う。
- ・次年度の協定校留学生数に必要な寮の部屋数を確保する。
- ・留学生の活動をまとめたニュースレターを発行し、協定校に送付する。
- ・短期留学後帰国した学生の杏林大学大学院進学を促進するため、教務課と連携して入学前相談、ビザ取得支援を行う。
- ・校外研修を実施する。

グローバル人材の育成

- ・国際理解セミナーおよびグローバル企業セミナーを開催する。
- ・語学サロンと別部署が管理しているライティングセンターを連携して運営することで利用の

活性化を図る。

- ・国際交流の集いを開催する。

[図書館]

施設・設備の整備と有効活用

各学部の教育に必要な図書、雑誌、データベース、電子ブックを整備・提供し、利用頻度に応じた資料の入れ替えにより、利用に則した蔵書構築に努める。

学習・教育支援

- ・授業や講習会でデータベース、電子リソースの利用講習等の充実を図る。
- ・シラバスに記載された教科書、参考書を電子ブックにより提供できるようにする。
- ・医学分館で、学生への専属図書館員（サポート・ライブラリアン）サービスを実施し、レポート・論文作成のサポートを行う。
- ・井の頭分館で、アルバイト学生、大学院生を雇用し学習サポートサービスを充実させる。
- ・企画展示やミニレクチャーなどを開催し、学生の学習意欲を刺激する。

<学生生活支援>

[医学部]

学生支援業務の整備と円滑な運用

三鷹保健センターの機能強化

三鷹保健センターは前年度、新型コロナウイルス感染症の蔓延の防止を目的として、付属病院救急総合診療科との連携により「三鷹キャンパス学生の発熱・急性上気道炎症状出現時のフロー」を策定した。コロナ感染症の収束に至るまでの期間、感染蔓延の状況を注視しつつ、必要に応じてこのフローの改訂を行うとともに、学生への周知徹底の強化により、その効率的な運用を図る。また現在、学生の保健業務については、医学部事務課学生係と協力して行っているが、昨年度より、病院実習（BSL）開始時に必要となるワクチン接種歴、抗体検査値などの情報は、三鷹保健センターで一元管理することとなったことから、有事における円滑かつ迅速な対応を可能とするべく、運用体制の強化を図る。

[保健学部]

入学後の就学継続支援体制の充実

入学後1～2年の間に進路（学部・学科）変更や退学を希望する学生が毎年一定割合で存在する。これに対し学生支援センターに就学継続支援部門を設けて、個別対応を行う。また進路変更・退学の原因を精査して、入学前の広報等に反映する。

[学生支援センター]

学生支援センター業務の整備と効率的な運用

井の頭・三鷹両キャンパスの公認クラブ・同好会の連携と統合へ向けての調整

医学部のクラブ活動と他の3学部のクラブ活動との接点はこれまであまりなかったが、井の頭キャンパスの開設に伴って医学部以外の学生が医学部のクラブ活動に参加する例が散見されるようになり、共通のルールによる運用の必要性が生じてきた。加盟する連盟や活動時間の違いもあり、全面的に一元化するのは困難であるが、井の頭キャンパス学生支援課、保健学部看護学科三鷹事務室、医学部学生係の3部署の連携により基本的な運用の共通化を進めて統合を目指していく。

井の頭キャンパス本部棟2階図書館を利用した総合学生支援事業推進

前年度に引き続き、図書館、教務課、キャリアサポートセンターなど、関係各部署と密接に連携し、総合学生支援事業を推進していく。具体的には図書館2階を総合学生支援事業のステーションとして活用するとともに、学内学生の図書館アルバイトを積極的に活用し、事業を推進していく。

学生相談室業務の人的拡充

2019年度より、学生相談室は新体制となった。学生相談における業務では、その主な目的を医療機関につなぐこととし、専任1名が常駐して新規ケースを全て担当し、兼任3名がこれまでの継続ケースを引き続き担当して対応してきた。また、井の頭キャンパス学生支援課、保健学部看護学科三鷹事務室、医学部学生係がそれぞれ相談業務の窓口となり連携も確立されてきている。一方、コロナ禍の影響もあり相談件数は、増加傾向であり専任者1名で新規ケースの対応が困難となってきている。そのため、学生のニーズに応えるべく学生相談室に常駐できる専任者の拡充を検討したい。

高等教育の修学支援新制度への対応

2020年4月から、経済的に修学が困難な学生を支援する国の授業料等の減免と学生支援機構による給付型奨学金の拡充からなる修学支援新制度が始まり、当大学も予想より多くの学生が対象となり給付を受けている。しかしながら、この運用において、学生支援センターの業務負担が大きいため、運用方法や入学センター、教務課、その他の関係部署との連携方法の見直しを行い、業務内容の効率化を図っていく。

コロナ禍における学生のボランティア活動等の学外活動の促進と評価

井の頭キャンパス移転後は学外に出かけることが容易になったこともあり、学生による各種ボランティア活動等の学外活動が盛んになっている。また、延期となった東京オリンピックは2021年に開催されるため、多くの学生がボランティア活動として参加することが予測される。これらのボランティア活動などの学外活動は、コロナ禍で行われることが予測され十分な感染対策を取りながら行うことが求められる。2020年度より、学生の成長を促すこれらの活動の促進・評価のため学生ハンドブックに活動実績記録ページを設け、可視化を進めているため、感染拡大予防という視点でも推進していく。

修学継続支援窓口の設置

現在、低学年における修学意欲の低下を動機とした退学者数が増加傾向となっている。これまで、退学に特化した相談窓口はなく、退学を希望する学生に対応する際、各部署での連携が取りにくい状態であった。そのため、修学継続支援窓口を学生支援センターに設置し、退学や進路変更などにおいて支援が必要な学生を一元的に把握し相談内容によって各部署へつなぐ窓口として連携を強化したい。それにより、退学者数の減少を図りたい。

<心身の健康支援>

[三鷹保健センター]

健康保健活動の質向上に向けた取り組み

心身の健康支援

基本方針

三鷹保健センターは、三鷹キャンパスにおける学生及び教職員の健康の保持増進を図ることを目的として事業活動を進める。健康診断、予防接種、感染症予防、感染症抗体検査及び保健に関する知識の普及・啓発等を行っていく。

事業計画

1. 健康診断

学生・教職員を対象とした法令に基づく定期健康診断を計画・実施する。その過程で、関係部署との連絡・調整を密に行い円滑な運営を目指す。

教職員は定期健康診断の受診率 100%の継続と共に実施後の健康相談等、より充実したサービスの提供を目指す。また、「健康管理システム」を使用し、Webによる健康診断結果提供の検討を開始する。結核感染予防も引き続き、健康診断における胸部 X-P 検査の受診と結核患者接触者への T-SPOT 検査を徹底する。

学生健康診断については学校保健安全法を遵守しつつ、より有意義なものになるよう、各学部と連携しデータ管理方法の検討を継続していく。

2. ウイルス抗体検査およびワクチン接種

関係部署と協力し、付属病院で勤務する教職員の過去の抗体価および接種歴の管理を行う。そのデータをもとに、水痘・麻疹・風疹・流行性耳下腺炎並びに HB ワクチンの接種が必要な職員をリストアップし、集団接種の機会を設け、接種を勧奨する。また、インフルエンザワクチン接種の重要性を広く啓発し、学生及び全教職員の希望者に対し接種機会を設ける。

3. メンタルヘルス

「ストレスチェック」の受診率向上、過重労働者の面談義務化および関連部署との情報共有を通じて、メンタル不調者を早期に拾い上げ、休職の未然防止に努める。また、休職者に対して復職前に産業医面談を実施し、休職の再発予防に努める。この他、院内カウンセリングルー

ムおよび外部相談窓口の活用も促進していく。また、人事課・安全衛生委員会・井の頭保健センターと連携し、教職員のメンタルヘルス向上を目的としたカウンセリング体験会や講習会を実施する。

4. 新型コロナウイルス感染症予防

医療安全管理部感染対策室・医学部事務課・保健学部看護学科と情報共有し、新型コロナウイルスへの感染予防を図る。また、発熱・急性上気道炎症状等により感染が疑われる者には前年度策定したフローに基づき、適切な対応を行う。

5. 健康保健業務の円滑化

保健センターの機能向上を図り、健康診断（二次検査を含む）、健康相談、カウンセリング、各種診断書など多岐にわたる健康保健業務の一元管理を推進し、職員や学生が、業務や学業を安心して行えるよう利用しやすいシステムの構築を継続すると共に体調不良者が休養可能な部屋の確保を目指す。

[井の頭保健センター]

心身の健康支援

基本方針

井の頭保健センターは、井の頭キャンパスにおける学生・教職員の心身の健康維持・管理を指導・支援することにより学園環境の質的向上に寄与すること、および医療系学生の医療機関実習に必要な感染症対策を主な業務とする。このために外傷・疾病の応急処置、定期健康診断、健康相談、メンタルヘルス対策、保健指導、各種啓発活動、抗体価測定、ワクチン接種などを実施する。さらに今年度は新型コロナウイルス感染症対策を重点施策の一つとする。

1. 健康診断

学生・教職員を対象とした法令に基づく定期健康診断および特定健康診査を実施し、その結果に基づき必要に応じて個別指導を行う。また健康に関する相談は常時受け付ける。学生には就職活動等に必要健康診断証明書等を随時発行する。今年度は定期健康診断、特定健康診査の受診率の向上を図り、さらに実施後の健康指導を充実させる。

2. ワクチン接種

保健学部ワクチン接種委員会と連携し、医療系学生には入学後に水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎の抗体検査およびHB抗原抗体検査を実施し、日本環境感染学会の「医療関係者のためのワクチンガイドライン」に従いワクチン接種を指導する。HBワクチンは保健センターでまとめて接種する。実習指導等で検査が必要な大学院生・教員には学生と同様に対応とする。インフルエンザワクチン接種は医療機関実習を行う学生・大学院生および教職員の希望者を実施する。

3. 外傷・疾病への対応

学生・教職員の外傷・疾病に対する応急処置を行う。この際には付属病院と積極的に連携す

る。状況に応じて他の医療機関への紹介、病院搬送、救急車要請等を行う。学生・教職員の疾病や外傷に関する相談には随時対応する。杏園祭等のイベント実施時には待機体制をとる。杏園祭では食中毒・火傷等の外傷の予防のための学生に対する衛生ガイダンスを実施する。キャンパス内に設置した3台のAEDの管理・保守点検を行う。

4. メンタルヘルス対策

学生については学生相談室および付属病院精神科との連携を密にしてメンタルヘルスの向上をはかる。職員のメンタルヘルスについては産業医と連携して対応する。

5. 啓発活動

禁煙、飲酒、熱中症、薬物乱用等に関する啓発活動を実施する。またポスター、ホームページ、ユニバーサルパスポート等を利用してインフルエンザ、感染性胃腸炎、結核等の感染症や各種疾病に対する予防と知識の普及に努める。今後実施予定の井の頭キャンパスの全面禁煙に向けて禁煙の啓発活動を重点的に行う。保健センター内においては全国大学保健管理協会のイベント等を活用し自己研鑽に努める。

6. 新型コロナウイルス感染症対策

キャンパス内での蔓延を防止するため、学生・教職員の感染防止の啓発に務める。感染防止の中核部署として、感染者、濃厚接触者、有症状者の情報を収集し、所属学科・教務課・学生支援課・庶務課等と連携して対応する。必要に応じて付属病院感染症科および保健所等の外部機関とも連携する。そのためのフレキシブルな指針を作成してその周知を図り、実情に合わせた対策を講じていく。

2 研究体制の強化

[医学研究科]

研究環境の整備を目指した取り組み

- ・管理体制見直しにより、共同研究施設のより効率的な運用を目指すとともに、研究者の利便性の向上に向けた取り組みを引き続き行う。
- ・イブニングセミナーの活性化や大学院生の受入等を通じた学内研究室間の更なる交流の促進を図る。

[保健学研究科]

大学院学生の研究指導の充実

医学研究科と連携した学術講演会への参加を促進する。定期的なセミナーに関しても、オンライン配信・オンデマンド配信により活性化させる。教員側の教育方法・研究支援策として、定期的にFD・SDを開催する。また、学術論文執筆セミナーの開催を検討する。

[国際協力研究科]

国際交流の更なる促進

令和2年度に予定していた海外協定校への短期訪問や研究交流の検討会は新型コロナウイルスのために実施できなかったため、ZOOMでの開催等の代替案を用いて実施する。

大学院生のFD活動の推進および外部資金獲得の奨励

キャンパス内で開催しているFDプログラム、および研究のための奨学金に対する大学院生の意識を、対面授業やZOOMを用いて向上させる。

[研究推進センター]

研究活動の活性化

全学的な研究体制の構築・研究の広がりへの取り組み

- ・幅広い学問領域を網羅する総合大学の長をを活かし、学際的な研究を行う体制を構築する。
- ・研究者間の交流を促し、相互に各々が持てる研究力の広がりや伸展・深化につながるような機会としてチュートリアルやコラボレーションセミナーを企画・開催する。

科学研究費補助金の獲得のための支援

- ・科学研究費補助金の応募数ならびに採択数向上を目指して、過年度の状況を検証・分析のうえ、必要な情報提供、コーディネート機能をきめ細かく行い、科研費獲得セミナー・ワークショップと連動して相乗効果が上げられるように戦略的に実施する。
- ・科研費申請未経験の特に若手研究者を対象に、ファーストステップとなる研究計画の策定、研究計画調書の作成に関する勉強会・チュートリアルを実施する
- ・母国語以外の言語による論文数の執筆数増加及び論文内容の向上、プレゼンテーションスキルアップによる研究業績の充実を図る観点から、英語論文作成・研究成果発表のためのプレゼンテーションに関するセミナー・ワークショップを開催する。

研究倫理教育充実の施策の実施

- ・研究倫理向上のため、APRIN による e-learning の受講を推進し受講率を高め研究倫理を高める取り組みを実施し、学術研究の信頼性と研究費執行の透明性を一層充実する。

研究環境の活用・整備

- ・三鷹・井の頭キャンパスに研究者が要望する設備・備品を整備し、既存施設・設備についても学内での共同利用等を促進して、限りあるリソースで最大限の効果があがるように活用する。
- ・競争的研究資金による科研費間接経費の執行について、費用対効果を検証し、より一層の研究活動の充実に参加できるような仕組みへと見直し実行する活用について提案する。

産学官連携の推進

- ・研究実績を社会実装へつなげる取り組みとして、国の機関をはじめ公共団体や各種団体が公

募するプロジェクトに積極的に応募し、人的資源・物的資源・知的資源を活用し社会貢献として産学官連携を推進する。

[男女共同参画推進室]

女性・若手研究者研究活動支援

「研究支援員制度」の充実化

「研究支援員制度」をより充実した制度とするために、運営基盤・方法等を発展的に見直し継続する。特に、オンラインによる研究支援のあり方について検討する。申請者の研究成果に貢献するとともに、研究支援員の研究マインドの育成等の教育的効果をさらに重視する。

研究力向上のためのセミナー等の開催

昼休みや就業時間後を活用して学生・大学院生・教職員等の意識啓発や研究力向上を目的とした「ランチョンセミナー」「トワイライトセミナー」、交流を目的とした「ランチョンミーティング」「トワイライトミーティング」を適宜開催する。また、オンラインでの開催についても検討する。女性・若手研究者の研究力向上に向け、「統計セミナー」「論文作成技能セミナー」「科学研究費補助金獲得セミナー」等を研究推進センターと共催する。

ライフイベント、ワークライフバランスに関する情報提供・研究および相談体制の強化

すでに開設・発行されている「出産・子育て支援ナビ」、「介護支援ナビ」、「出産・子育て支援ハンドブック」、「介護支援ハンドブック」、「ライフイベントガイドブック」を活用し、情報提供を継続する。情報提供および支援をするための研究も行う。特に、新型コロナウイルス感染拡大の影響による仕事と家庭の両立について検討していく。また、男女共同参画推進室運営委員らの同席のもと、ライフイベントに直面している女性研究者とその所属上長のオンラインを含めた面談の機会をアレンジする等、相談体制を強化する。

女性・若手研究者に対する支援と裾野拡大の継続

シニア研究者による女性研究者への助成金申請書作成の助言・支援を積極的に拡充し、将来的に自ら適切な申請書を作成できるようきめ細やかな指導を行う。また、4 学部および大学院 3 研究科の若手研究者の連携を強化し、共同研究の機会を増やす。「既存制度の積極的活用推進策」の策定と実施、ハラスメント防止対策委員会との協働による「ハラスメント防止策」の実施、「メンター制度」の運営を引き続き実施する。

三鷹市との協働による女性研究者支援

三鷹市と杏林大学は、「三鷹市男女平等参画条例」に依拠する形で協働し、官学連携による男女共同参画・ダイバーシティの推進を全学的に展開していく。本年度も、育児・介護等の支援体制拡充に向けた連携協議を継続的に実施する。また、ファミリーサポート制度（地域連携の育児支援制度）導入の検討を行う。

女性研究者を積極登用する人事計画

全学部で引き続き、女性研究者の積極登用を図る。日本政府が「第 5 次男女共同参画基本計

画策定に当たっての基本的な考え方」等に掲げた目標の達成*を本学においても目指す。

[図書館]

施設・設備の整備と有効活用

各学部の研究に必要なデータベース、電子ジャーナル、電子ブックを購入し、利用環境を整備する。導入するコンテンツが有効活用できる仕組み作りを進める。

講習会の実施と質の向上

オンライン講習も含めた電子リソース利用講習会の充実を図り、データベース、電子ジャーナル、電子ブックの有効活用を促進する。

利用講習会の参加者アンケートを行い、その有効性を評価し、講習会の質の向上につなげる。

機関リポジトリの構築

博士学位論文の機関リポジトリへの登録を行い公開する。また他の学内研究成果を機関リポジトリに掲載する。

ILLを活用した支援強化

必要な文献をILL（図書館相互貸借）による取り寄せで提供し、研究体制の支援を行う。

3 優秀な学生確保

[入学センター]

井の頭・三鷹キャンパスを軸として入試広報・入試実施の推進

※令和3年度は新型コロナウイルス対策を考慮し、マーケットの状況から令和2年度と同様な入試方法で実施。また、定員厳格化による安全志向の余波は継続すると推察し、今後の動向に注力し入試広報も令和2年度と同様に進めるとともに、新型コロナ対策に配慮した入学試験の円滑な運営を図る。

首都圏の高校に注力し、志願者獲得を図る

定員増、カリキュラム改正などのトピックスを活用し、井の頭キャンパス通学圏内（概ね90分）となる東京圏及び首都圏（1都7県）に向けて、多くの情報を提供し本学の認知を拡大させる。また多様性のあるエリアをもつ“吉祥寺”に、“最新の教育施設を要する綺麗なキャンパス”のある本学の強みと特徴を活かし広報活動を展開する。さらに直近の入試結果を参考に志願者数が良好な有益となる高校（偏差値50～）を選定し、学力の高い志願者の獲得を図る。

広報・企画調査室と連携を強化し、業者発行の刊行物やSNS等のWeb企画の有効活用を図り、受験者（高校1・2年生を含む）・保護者及び高校教員へのアプローチを強化し、総志願者数（令和2年度実績）を更新する

- ① 入試インフォメーションの充実：募集要項と重なる情報は極力省き、入試情報が明確に理解しやすいフォームに更新し、早期発行（5月下旬）を目指す。
- ② 業者発行の刊行物等を見直し、情報とデータ分析のもと効果的な媒体に参画する。さらに、費用対効果に優れた SNS に注力すると共に Web 公告を活用する。
- ③ 高校生の大学選びアンケートで上位に位置する“活気ある雰囲気”や“成長させてくれる大学”を打ち出すため、学生活動の記録を Web コンテンツ化し PR 活動を進める。
- ④ 各学部の具体的な数値目標は、医学部 3,200 人、保健学部 6,600 人、総合政策学部 1,500 人、外国語学部 1,700 人、総志願者数 13,000 人。

オープンキャンパス・進路相談会等の充実を図る

令和 2 年度より導入した Web オープンキャンパスとオンライン相談会を充実し、併せて対面型オープンキャンパスを有効的に活用する。さらに地方主要都市で高校教員と受験生対象説明会を企画し、各々の学部と調整しながら、受験生の多くに本学への志願力の定着と興味力を向上させる。

有効的な入試方法を提案し、入学試験の円滑な運営を図る

前年度入試の課題及び改善点を検証し、有効的な入試方法を提案する。入学試験前の各学部と入念な打ち合わせのもと、完成度の高い実施要領を作成し、関係者と情報共有のもと新型コロナウイルス対策も鑑みて、事前準備から当日の運営及び入学手続きまでを円滑且つ正確に実施する。

4 キャリア支援の向上

[キャリアサポートセンター]

基本方針：「ポスト・コロナ」時代に向けた就職支援の見直し強化

新型コロナウイルスの感染拡大により、令和 2 年度の就職戦線は大きな打撃を受けた。大卒求人倍率は 6 月時点で 1.53 倍と前年より 0.3 ポイント低下し、日本経済新聞の 10 月の調査によると内定者数は、令和 2 年春の入社数に比べて 11% も減少した。過去のバブル崩壊やリーマンショックの経験から、今後の就職環境は業種間に差はあるものの、厳しい状況が続く恐れがある。

こうした変化を前提に、キャリアサポートセンターでは、「ポスト・コロナ」時代に向けて就職支援のあり方を見直し強化し、「より早く、より深く、よりきめ細かく」をモットーに、一人でも多くの学生の満足度の高い就職の実現をめざす。

「より早く」学生の意識とスキルの向上

景況感の悪化に伴い、企業の採用活動は業種間に差はあるものの採用者数がさらに減少し、早期化とともに短期集中化することが予想されている。その結果、動き出しが遅い学生が苦戦し、選考の早い段階で落とされる学生が増えることが懸念される。

こうした動きに対応するため、低学年時からキャリア教育と支援イベントを効果的に組み合わせることによって、「より早く」就職に対する意識を高めるとともに、就職活動を行うため

の基礎力、スキルを身につけさせることをめざす。その際には企業のオンライン選考導入の傾向など最新の動向に十分留意する。

「より深く」教員や企業との連携

就職環境の悪化に対応するため、教員との連携を「より深く」密にして、学生ひとりひとりの希望や動向を把握するとともに、就活トライアル（総合政策）、就活シミュレーション（外国語）をはじめとする本学独自の特色ある支援イベントの充実強化をはかり、あわせて学生にとって魅力あるイベントの開発に努める。

一方で企業との関係を「より深め」、本学卒業生を多く輩出している親密企業への選考に、より多くの学生がチャレンジする機会を提供するとともに、新たな優良企業、有名企業の開拓にも力を入れて、中長期的には景況に関わりなく就職に強いと言われる大学をめざす。

「よりきめ細かく」学生への支援と指導

学生にとって満足度の高い就職を実現するためには、教員と連携しながら学生ひとりひとりの希望や個性にあわせた「よりきめ細かい」支援と指導が不可欠である。ここは中規模な大学であるという特性を活かして、‘face to face’による個別の指導体制を強化し、学生に気づきを与えながら成長を促すことで、満足度の高い企業への就職を支援する。

加えて学生の動向も「よりきめ細かく」把握しつつ、時機に叶ったアドバイスを与えることで、就職を希望する学生は最後のひとりまで支援するという姿勢を貫いてゆく。

5 情報基盤の整備

[総合情報センター]

With コロナ時代の授業支援とセキュリティ規程の整備

情報セキュリティ対策

学園全体の情報セキュリティ基本規程に基づく対策

1. 情報セキュリティ基本規程の下位文書として、各種対策基準、実施規程等を整備する。
2. FD/SD等を通じて教職員及び学生に情報セキュリティ教育を行い、意識の浸透を図る。
3. 標的型攻撃メール等に対する対策を充実する。（Windows10におけるウイルス対策ソフトの見直しを図る）

授業の円滑な運営に向けた学内 LAN の回線増強と学事システムの最新化

With コロナ時代に即した学内 LAN 回線の増強と学事システムの最新化

1. オンライン授業・ハイブリッド型授業に備えて学内 LAN 回線の帯域速度を向上させ、インターネット環境を含め構内網を 10Gbps 化する。
2. 学事システムを最新化し、学生、教員及び職員に対して、スマートホンアプリに対応することを含め授業支援を充実させる。
3. ファイアウォール、無線 LAN コントローラー及び認証系サーバーをデータセンターに移設し、IP アドレス等の設定も自動化することで、キャンパス間の隔たりを無くし、学園全体の効率的なシステム管理を実現する。

キャンパスリニューアル工事への対応（松田進勇記念アリーナ・新棟等）

三鷹キャンパスの各種リニューアル工事ごとの適時・適切な対応

1. 2021年3月に竣工予定の松田進勇記念アリーナ、2022年3月に竣工予定の医学部講義棟について、利用者がストレスを感じないICT環境を実現する。
2. 三鷹キャンパスの将来構想に基づき、今後数年に亘って新改築される講義棟、研究棟、病棟等について、デジタル時代に相応しいICT環境となるよう設計に関与する。

ワークフロー（電子決裁）へのアプローチ

決裁スピードの向上、教職員の利便性向上・効率化の実現

1. 現行の原議決裁を踏襲しつつ、紙ではなく電子決裁として、承認依頼・回覧・連絡等を行えるシステムを導入し、導入効果の高い文書類から利用を開始する。加えて、決裁文書等の電子媒体によるストレージ保管を実現し、ペーパーレス化を進展させる。
2. 学園内への周知、利用マニュアルの作成、講習会等を通じて、学園内への浸透を図る。
3. マイルストーン（目標中間点）を設けて導入効果の測定も行うことで、PDCAを回しつつ、導入後の改善と将来的な利用拡大を検討する。

6 地域交流活動

[地域交流推進室]

コロナウイルス状況を踏まえた新たな活動の推進

杏林CCRC研究所の発展的改編

大学COC事業に基づき設置した「杏林CCRC研究所」については、その名称が果たす役割は達成されたと言える。一方で、地域社会を舞台とした研究に対する学内外のニーズは高いことから、これまでよりも視野を広く持って機動的に動くことができる組織として研究所を（名称を含めて）改編することを検討していく。

連携自治体内における産学官連携活動の強化

令和3年度においては、包括的連携協定を締結している三鷹市・武蔵野市・羽村市との連携活動を継続するとともに、地域交流推進室・杏林CCRC研究所を核とした地域志向研究も含めて、調布市など近隣地域を舞台とした活動を推進していく。活動においては、特に「With / After コロナ」状況下でも展開可能な内容となるよう検討していきたい。

「子育て支援・教育支援」連携体制の構築

コロナウイルス状況下において、三鷹市教育関係者より「子供たちの教育格差」を改善するための学生ボランティア派遣について協力要請があった。また子育て世帯の困難さも明らかになってきたことから、本学の地域交流活動の新たな軸として「子育て・教育への支援」を設定して活動をスタートさせた。令和3年度においてはこの活動をさらに活発化させるとともに、新たな学生の地域交流活動の場を創出する取り組みを進める。

地域志向教育・社会貢献活動を通じた学部・研究科間連携の促進

医学部付属病院を含めた学内での地域交流活動情報を収集するとともに、学部間連携による「本学ならではの」地域志向教育・社会貢献活動について地域交流委員会を中心に企画検討する。その取り組みについては、学外地域を対象とした教育・研究活動のスタートアップへの補助である「地域活動支援事業」を通じた支援を積極的に行うとともに、その成果を『地域交流推進室論集（仮）』や『フォーラム』にて公開していきたい。

7 医療体制

[医学部付属病院]

健全な病院経営と特定機能病院としての地域医療への貢献の促進

1. 健全な病院経営と診療内容の質的向上

- ・ データを活用した病院経営の改善
- ・ 産科病棟の改築による周産期医療の充実
- ・ 手術室の効率的運用と増築による手術件数の増加
- ・ 放射線治療器や PET-CT の効率的な運用
- ・ ガンゲノム医療やがん遺伝子治療の促進による高度な癌診療の実現
- ・ 高難度新規医療技術の導入促進の継続

2. 院内感染防止対策の強化と医療安全の推進

- ・ 新型コロナウイルス感染症の院内感染防止の徹底
- ・ 全職員に対する院内感染防止と医療安全教育の促進
- ・ 職員教育における病院ホームページの有効活用の促進

3. 職員の勤務環境の改善と人材育成の推進

- ・ 医師働き方改革に関する時短推進計画の作成
- ・ 夜勤看護師の安定的確保の推進と看護師の時間外勤務時間の短縮
- ・ 特定行為研修看護師教育課程の開始と専門・認定看護師の活用促進
- ・ 総合研修センターによる職員教育の統一化の促進
- ・ 医師事務作業補助者の増員と業務拡大による医師業務負担の軽減
- ・ リモート会議を活用した院内諸会議の効率化の促進

4. 地域医療機関との連携強化

- ・ リモートネットワークを活用した地域医療機関との連携強化
- ・ 地域医療機関との ICT 導入に向けた環境整備の促進
- ・ 東京都のドクターヘリ運用開始とその活用の促進
- ・ 患者予約システムの改善による初診患者数の増加

各部門（部署）病院事業計画

【病院管理部】

1. 病院情報システムの充実：ICT 導入に向けた環境整備を推進する
2. 健全な病院経営への貢献：より明瞭な病院経営収支資料を作成し提案する
3. 迅速かつ適切な物品調達の実施：病院運営に必要な物品を迅速かつ適切な価格で調達する
4. 診療材料購入費の適正化：購入費の適正化に向けて、在庫管理及び発注方法等を検討する
5. 一般消耗品購入費の適正化：購入費の適正化を目指し、物品、納入業者、発注方法等を検討し、適宜変更する
6. 業務委託内容の適正化：業務委託費の適正化に向けて、委託内容の見直しを検討する

【医療安全管理部】

1. 高度な医療安全管理体制の確保、推進
 - ①インシデントレポートシステムを利用した分析と評価
 - ②死亡例、濃厚治療事例の評価・分析
 - ③医療安全に資する診療内容の収集、分析、評価（モニタリング）
 - ④医療従事者の能力開発に関する取り組みの強化
 - ⑤地域医療機関の医療安全文化醸成への貢献
2. 院内感染防止体制の改善、対応の強化
 - ①マニュアル・ガイドラインの見直し、及び遵守状況点検のための職場巡視の強化と指導
 - ②各種サーベイランスの推進、相談・介入体制の強化、適正な抗菌薬使用の推進
 - ③医療従事者に対する教育の強化、院内感染に関わる人材の育成
 - ④地域への貢献の推進
 - ⑤重要事項の速やかな周知及び確認方法の構築
3. 高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等を用いた医療提供の安全性の確保、対応の強化
 - ①高難度新規医療技術・未承認新規医薬品等導入プロセスの遵守等の徹底
 - ②導入後（実施後）の経過確認・定期報告の徹底
4. その他、当室の業務に関する計画
 - ①安全なC V C管理・鏡視下手術・輸血療法の実施、褥瘡発生率の減少、脳死下臓器提供の体制整備

【患者支援センター】

全体的課題

1. 入院前から退院後に至るまでの一貫した患者支援を多職種で組織横断的に行う
2. 地域の医療状況・社会資源の変化に応じた地域連携機能を継続的に構築する
3. COVID-19 対策に協力し、安全かつ効率的な病床運営を行う

[地域医療連携]

1. 近隣医師会・登録医との更なる連携強化
 - ①医療連携フォーラムの開催
 - ②患者紹介受け入れ（診療情報を加えた FAX 予約）の迅速化

- ③依頼から 2 週間以内の受診の実現
- ④土曜日の受診枠開設
- ⑤COVID-19 ワクチン接種後の副反応患者依頼への体制構築

2. 逆紹介率の向上、紹介状返信の徹底

- ①逆紹介先未確定患者の逆紹介支援
- ②紹介状返信の管理体制の構築（特に二回目ないし最終報告の確認体制）

[入退院支援]

1. 入院前支援の充実

- ①入院前支援対象診療科を拡大し、病棟看護業務の負担軽減および早期退院支援を行う
- ②入院患者の入院時スクリーニングに関わり、特に COVID-19 の院内感染防止に努める

2. 安全かつ効率的な病床運営の実現

- ①重症度、医療・看護必要度の評価基準を考慮した病床管理を推進し、クリティカルケア病棟から一般病棟へのスムーズな転棟を支援する
- ②SHCU 病棟の病床運用変更に伴う、課題抽出や体制の構築に協力する
- ③2 日以前退院決定の徹底および午前退院・午後入院の推進により空床の有効活用を行う
- ④診療科や病棟における病床管理上の課題に対し、課題解決に向けた取り組みを行う
- ⑤各一般病棟における COVID-19 偽陰性者を想定した水際対策を支援する
- ⑥COVID-19 の蔓延防止に努めながら、通常の病床運営に近づくよう、安全かつ効率的な病床運営の実現に努める

3. 退院（転院・在宅）支援の強化

- ①リモートネットワーク活用による退院前カンファレンスを推進し、在宅療養支援の強化を図る
- ②転院支援システム(WEB)を活用し、転院支援の効率化を図る

[医療福祉相談]

1. 退院（転院・在宅）支援の充実

- ①退院調整看護師と共に、転院支援システムの活用による転院支援の効率化を図る
- ②社会的困難症例等に対し、社会資源を活用した退院支援を行う

2. 医療の場における福祉の視点の効果的活用

- ①周産期・小児における養育支援を含めた虐待の予防と再発防止に、多職種で協働して取り組む
- ②就労支援を含めた社会生活の継続や生活上・療養上の課題解決に向けた相談支援を行う
- ③認知症の人やその家族が、地域で安心・安全な生活の維持ができるよう支援を行う
- ④適切な支援が行えるように研修等へ参加し、自己研鑽に努める

3. 地域連携・多職種協働の強化

行政や地域専門機関が開催する会議等へ積極的に参加し、情報交換・情報共有を行って地域連携の強化を図る

【総合研修センター】

1. 職員研修の企画・実施

医療安全管理部、看護部、診療科など関係部署の協力の下に、以下の研修を行う

- ①接遇研修（初級、中級、上級）
- ②生命危機に関わる診療行為に関する研修（酸素吸入、他）

- ③一次救命処置（BLS）、二次救命処置（ALS）
- ④外科縫合講習、鏡視下手術認定講習
- ⑤CVC 認定講習・実技試験
- ⑥全職員を対象とした研修記録の確認、プログラムに関する支援
- ⑦派遣職員、業務委託職員に対する医療安全等に関する教育研修
- ⑧その他、リモート会議（リモートワーク）を活用して効率化を図りつつ、医療安全、診療の質の改善、患者サービスの改善に寄与する教育研修

2. 職員の能力評価システムの改善

病院機能評価に対応するために作成した、各科の能力評価システムに対するフィードバック

3. 広報活動

- ①総合研修センターのホームページへの情報の追加・更新
- ②レジナビフェア・レジデントフェスティバル（初期研修説明会）への参加（2021年6月、2022年3月）
- ③レジナビフェア（専門研修説明会）への参加
- ④他大学学生対象の病院説明会（2021年6月）
- ⑤web・オンラインを活用した情報発信、イベントの実施
- ⑥研修に関するパンフレットの改訂、配布
- ⑦他院で初期研修中の本学卒業生へのコンタクト

4. 初期臨床研修に関わる事業

- ①研修医の採用、オリエンテーション、ローテーションの管理、評価、協力施設との連絡等、ルーティーン業務の確実かつ効率的な実施
- ②指導医養成ワークショップの開催
- ③2020年度以降の臨床研修制度変更に伴う対応
- ④研修病院の第三者評価受審に向けた準備
NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）の評価項目について、関係部署との調整

5. 専門研修に関わる事業

専門医制度導入後に必要な諸事業の計画・実施

6. 院内 CPC の事務局の業務

7. 女医復職支援委員会の事務局の業務

8. 特定行為研修の事務局の業務

9. クリニカル・シミュレーション・ラボラトリーにおけるシミュレーション研修の充実と支援、特に専門研修のレベルの高度なシミュレーション研修プログラムの作成と実施

10. 当センターの事業に関するデータの整理と医学教育学的研究

【がんセンター】

1. 機能の充実

- ①五大がん+前立腺がんにおいて、東京都がん診療クリニカルパスの運用を進める
- ②地域、医療圏の医師や看護師を対象とした教育・研修を推進する
- ③患者・家族を対象とした教育活動および支援活動の推進として勉強会やセミナーの開催、サポートグループの運営を進める
- ④外来治療センターの運用の効率化を図る
- ⑤Cancer Board の充実と院内・院外研究会の開催を進める

- ⑥生殖細胞系列変異に伴う悪性腫瘍（乳がん、卵巣卵管がん、大腸がん、膵臓がん、腎がん等）を疑うクライアント（患者並びに親族）のカウンセリングを行い、遺伝子診断の結果に基づく、がん治療とがん発症予防に取り組む
- ⑦がんゲノム医療について、診療と人材育成を推進する

2. がん診療拠点病院の指定要件に係る取り組み

- ①がん対策推進基本計画
 - ・がんの予防（・がんの1次予防 ・がんの早期発見、がん検診（2次予防））
 - ・がん医療の充実（・がんゲノム医療 ・チーム医療 ・がんリハビリテーション・小児がん、AYA世代のがん等）
 - ・がんとの共生（・がんと診断された時からの緩和ケア ・がん患者の就労等）
 - ・がんに関する教育の推進・普及啓発に準拠し体制の強化を図る
- ②がんゲノム医療連携病院の機能を充実し、がん遺伝子パネル検査の実績を増やす
- ③がん患者団体との連携協力体制構築について積極的に取り組む
- ④院内がん登録の精度向上に取り組む。更に「全国がん登録」へ2020年症例の適切なデータ提出を行う
- ⑤国・都の指針に基づき、「当該2次医療圏においてがん医療に携わる医師等を対象とした早期診断、副作用対応を含めた放射線療法・化学療法の推進及び緩和ケア等に関する研修会を開催する
- ⑥緩和ケア研修会において、拠点病院以外の病院も対象として、積極的な緩和ケア研修会への受講勧奨を行う。また、全ての卒後2年目までの医師が緩和ケア研修会に受講出来る体制を強化する
- ⑦日本赤十字社東京都支部武蔵野赤十字病院及び東京都立多摩総合医療センター・東京慈恵会医科大学附属第三病院と連携を図り、北多摩南部医療圏を中心としたがん診療の更なる推進・向上のため、北多摩南部医療圏地域がん診療連携拠点病院情報連絡会をより機能的に運用する。また、北多摩北部医療圏における地域がん診療連携拠点病院（公立昭和病院）、がん連携病院（東京病院、複十字病院、多摩北部医療センター）とも連携を図り、がんゲノム医療やがん遺伝子治療におけるがん診療の充実及び情報の共有を図って行く。
- ⑧院内外の患者・家族、地域住民に対して相談支援センターの機能について周知し、がんに対する相談に積極的に取り組む（がん相談）
- ⑨PDCAサイクルのさらなる確保へ向け、診療機能や診療実績、地域連携に関する実績や活動状況、がん患者の療養生活の質、がん相談支援の充実について把握・評価し、課題認識を院内関係者で共有し組織的に取り組んで行く。

【脳卒中センター】

1. PSC コア施設として脳卒中急性期診療体制の維持

- ①急性血行再建（rt-PA療法、血栓回収療法）の質を維持（所要時間と転帰）
- ②感染防御を徹底した診療プロトコルの実践
- ③先進画像診断システムによる病態把握と治療適応の適正化

2. 脳卒中チーム医療と臨床指標の導入・改善

- ①脳卒中ケアユニットの充実（脳卒中診療チーム、専門看護師、急性期リハビリ）
- ②クリティカルパスとDPCデータに基づく検査・治療の効率化

3. 医療連携の促進と勤務環境改善

- ①逆紹介率の向上、リスク層別による triple win 体制の確立
- ②転帰調査（3 ヶ月および1年後 mRS）と診療プロセスへのフィードバック
- ③シフト制勤務と業務効率化による医師業務負担改善
- ④学術講演会を介した地域かかりつけ医との連携強化

4. スタッフ教育ならびに脳卒中医学教室との有機的連携

- ①院内発症脳卒中に対する院内啓発活動（FAST-DAN プロジェクト）
- ②臨床研究の充実と情報発信

【腎・透析センター】

1. 腎・透析センターの円滑な運営

- ①多職種連携によるチーム医療を推進する
- ②透析部門システムの運用、物品・機器の保守点検・刷新を適切に行う
- ③透析室マニュアルの見直し、修正を行う
- ④新型コロナウイルス感染症の透析患者に対する支援を適切に行う

2. 安全で質の高い透析・アフェレシス療法の実施

- ①新型コロナウイルス感染症を筆頭に感染対策を徹底する
- ②インシデント報告と再発予防を徹底し、アクシデントの発生を抑える
- ③透析液水質基準を満たす透析液の水質を維持する
- ④閉塞性動脈硬化症に対する新規治療（LDL 直接吸着療法）を実施する体制を整える
- ⑤災害対策訓練を継続し、必要に応じマニュアルの見直しを行う

3. 包括的 CKD 診療と地域連携の推進

- ①保存期療養指導と療法選択支援強化ため「腎臓病保存期外来」の拡充を図る
- ②近隣の透析施設との円滑な連携を図る
- ③腎移植の啓発と腎移植施設との円滑な連携を図る

4. 外来透析患者数の適正化と収益性の向上

- ①利便性と収益性のバランスに配慮しつつ、HD 患者数の適正化を図る
- ②外来 PD 患者数の適正化と診療の質向上を図る
- ③診療報酬改正に適切に対応する

5. スタッフの教育・研修の充実

- ①スタッフ教育の充実と内科外来との連携強化を図る
- ②自己目標設定と達成度評価の運用を見直す
- ③勤務の効率化と働き方の見直しを行う

【もの忘れセンター】

1. 認知症診療の鑑別診断と対応

- ①認知症の精度の高い鑑別診断と治療方針の決定
- ②かかりつけ医と連携したフォロー体制の構築
- ③COVID-19 の蔓延防止に努めながら初診枠の通常運用を目指す。

2. 入院患者の認知症ケアサポート（認知症ケア加算Ⅰの算定）

3. 身体合併症と行動・心理症状への対応

- ①身体合併症への積極的な対応
- ②地域全体での受け入れ体制の構築

4. 東京都地域拠点型認知症疾患医療センター事業の推進

- ①専門職（医師・看護師・介護関係者等）を対象とした認知症に関わる研修の開催
- ②認知症疾患医療・介護連携協議会の開催
- ③地域連携型認知症疾患医療センター（武蔵野、調布、小金井、府中、狛江各市）との連携

5. 地域連携およびネットワークづくりの推進（リモートネットワークの積極的活用）

6. 国・都・市区町村の認知症施策への協力

- ①三鷹市認知症地域支援ネットワーク会議への協力
- ②認知症初期集中支援事業等の認知症関連事業への協力

7. 非薬物療法、家族介護教室、医療相談の実施

COVID-19 感染防止策を徹底しつつ、非薬物療法、家族介護教室および医療相談を実施する

8. 情報の発信

認知症に関する正しい理解を広めるための積極的な啓発と情報発信

【人間ドック】

1. 医学的にさらに質を高めたドックの提供

- ①画像診断におけるチェックシステムの強化・維持に努める
- ②精密検査の予約や専門科への紹介などの一層の迅速化を図る
- ③体成分分析装置を用いて、さらに細かな生活習慣の改善指導を行っていく

2. 受検者の満足度向上および新規受診者の開拓

- ①需要の多い「特別コース」のさらなる増枠を検討する
- ②2022 年度に向けて、各コースのセット内容・価格の見直しを行う
- ③新たなオプション検査の導入を検討する

3. ドックデータを使用した疫学的研究の継続

【周術期管理センター】

1. 多職種連携による周術期管理の実施・強化の推進

- ①エビデンスに基づいた専門的なケアの導入
- ②合併症予防を強化したプログラムの確立
- ③手術侵襲からの迅速な回復の達成を図るよう援助する。
- ④術後回復強化を目指したプログラムの確立

2. 周術期管理センターの円滑な運営

- ①麻酔科管理症例の受診率の維持・向上
- ②周術期管理センター受診のための体制の整備・実施

3. 周術期管理センター運営に関わる活動の推進・強化

- ①各ワーキング活動の支援と運用導入の推進
（術前オリエンテーション、術前休止薬、術後疼痛、口腔機能評価、術前・中・後の情報共有、周術期総合機能評価 等）

【手術部】

1. 安全の確保と質の向上

- ①インシデント・アクシデント等の分析・評価・改善の実施
- ②手術安全管理マニュアルに基づく手順の実施の評価とフィードバック

- ③チームワークの向上、ノンテクニカルスキルを含めたスタッフ教育の推進
 - ・WHO 安全な手術のためのチェックリスト運用の最善化
 - ・デブリーフィング運用の確立
- ④周術期に関連する部署との連携の強化
- ⑤手術関連感染対策のより一層の徹底、ならびに特定感染症症例への手術対応の検討

2. 手術室増室に向けた準備と効率的な手術部の運営

- ①統計的データに基づく手術スケジュール調整の実施
- ②手術室増室と新しい手術室機能を見据えた手術枠の改正を行い、手術資源の効率的な活用の実施
- ③麻酔科医師・手術部看護師の増員と効率的な人員配置の実施
- ④関連部門との連携を強化し、資源を活用し質の向上を図る。
- ⑤タスクシフトや業務量調査等のデータに基づく業務の効率化を進める。

3. 手術設備・機能の新規導入および更新

- ①耐用年数・機能点検を加味した手術設備・機能の更新の実施
- ②新規医療技術への積極的かつ安全を重視した取り組み

4. コスト削減

- ①在庫削減、同種同効品への切り替えにより、診療材料・薬剤のコスト削減の実施
- ②診療材料・薬剤の請求漏れ防止の実施

【放射線部】

1. 医療安全の推進

- ①始業終業点検及び定期点検の徹底により装置の安定化を図り、検査・治療の安全施行に努める
- ②MRI 検査における吸着事故及び熱傷の防止のため、関連学会、機器メーカー、医薬品医療機器総合機構(PMDA)が発信する医療安全情報を高頻度で確認し、安全チェックリストの改訂や院内での啓発活動により、より一層の安全確保をおこなう
- ③昨年度の医療法施行規則の改正に基づき設置された医療放射線安全管理委員会の下で、放射線診療のプロトコール管理、被ばく線量管理、放射線の過剰被ばくに関する事例発生時の対応をおこなう。また、放射線診療の従事者に対する診療用放射線安全利用の研修をおこなう

2. 効率的運用と先進医療の推進

- ①放射線療法
 - ・画像誘導放射線治療 (IGRT) は装置更新年度に比べ前年度は3倍の6000件以上を達成したが、今年度も同等またはそれ以上の治療件数を達成する
 - ・高精度治療 (定位的放射線治療、強度変調放射線治療) については、前年度の件数は140件であったが、今年度も同等またはそれ以上の治療件数を達成する
 - ・2台のライナック装置の効率的利用により、息止め照射法の対象疾患の幅を広げ肺疾患だけにとどまらず肝臓、膵臓等にも取り入れる
 - ・腔内照射関係においては、腔内照射を基本として組織内照射も併用するハイブリッド治療に積極的に取り組む
- ②核医学
 - ・デジタル PET/CT 検査においては1日9件の予約枠にて効率的な運用と予約待ち日数の低減を図り、当院受診患者、地域医療連携室を介した他院の患者、人間ドックの検査予約を

積極的に受け入れ、悪性腫瘍等の疾患の判別診断に寄与する

- ・肺換気シンチグラフィの運用を開始し、肺血流と換気の2種類の画像提供により臨床診断に貢献する
- ・核医学検査件数全体においては、前年度実績より40%の増加を達成する
- ・半導体検出器が搭載されたPET/CT装置の性能を臨床にて最大限に発揮させるため、装置の性能評価や基礎的な研究にも取り組み、関連学会への演題投稿をはじめ、国際学会への研究発表もおこなう

③CT・MRI

- ・6台の診断用CT装置の効率的運用を図ると共に、予約外の緊急対応は電話連絡を活用し稼働率向上を目指す
- ・Dual Energy CT (DECT) 装置においては、その性能を最大限に発揮させ質的診断の向上を目指す。またAI技術を利用した再構成法、低管電圧撮影法(被ばく低減)、造影剤注入条件変法などの補助技術を取り入れた先進医療を推進する
- ・カンファレンスにも積極的に参加し、各診療科との最新技術の共有をおこなう
- ・6台のMRI装置については、検査枠の有効利用により待ち日数を減らしつつ急患にも積極的に対応する。また、3テスラ装置による高詳細画像の活用で、メニエール病の確定診断、前立腺及び膀胱がんの鑑別など、世界的ガイドラインにのっとった評価をおこなう

④X-P撮影

- ・昨年5月に導入した動態X線撮影システムを用いて、各診療科の様々な検査目的に適した質の高い動態画像を提供できるよう検討、調整を行い臨床に寄与する。同時に各科との連携の下で動画情報の新たな臨床利用を目的とした研究活動をおこなう

⑤血管撮影

- ・ハイブリッド手術室の増設計画に伴い、手術と血管撮影装置の効率的な運用体制を構築し、各診療科への術中支援に寄与する

3. 人材育成

- ①多職種との連携・協働の下で、各自の能力を発揮しチーム医療に貢献する
- ②職能団体による種々の認定取得を目指し、専門性の高い医療従事者を育成する

4. その他

- ①引き続き国内外の学術活動を推進し、検査・治療の質の向上に努める

【内視鏡室】

1. 患者背景にあった安全で質の高い内視鏡検査を行う

- ①検査需要の増加に対応するため、内視鏡検査および処置における一連の業務行程を職種ごとに見直し、安全面を確保しながらより効率的な内視鏡室の運営に努める。
- ②高齢者や併存疾患を有するリスクの高い患者に対する内視鏡診療が増加しており、鎮静剤の適正使用から使用後のリカバリーまで一連の診療過程を再度見直すことで、その問題点や改善すべき点を洗い出し、安全で苦痛の少ない内視鏡診療の実践に努める。
- ③今後、さらに需要の増大が見込まれる内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)ならびにダブルバルーン小腸内視鏡の件数増加に対応するため、これらの内視鏡診療に対応可能な人材育成を強化する。
- ④人間ドックなどのスクリーニング検査において、受検者からの要望が多い経鼻内視鏡検査に対応すべく、検査枠の拡充を図る。
- ⑤内視鏡診療を介した新型コロナウイルス感染を防止するため、内視鏡診療に関わる医療ス

スタッフへの感染防止に関する教育と感染防止対策を徹底する。

- ⑥需要の増大が著しい大腸内視鏡検査に対して、大腸内視鏡検査の前処置に必要な院内での待機スペースやトイレの確保が困難であることに加え、新型コロナウイルス感染のリスク増加が懸念され、今年度より被検者が自宅で前処置を行うこと可能にした検査枠を新たに増設した。これにより在院時間を減らすことで感染リスクの回避しながら、増大する検査需要にも対応することが可能となるため、本検査枠を最大限活用していく。
- ⑦2020年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けたが、2021年度については改めて2020年度の目標であった全検査数年間11,100件を目標とする。

2. 内視鏡センター化に向けた改善

昨年度から各検査日におけるメディカルスタッフと医師それぞれの責任者を設置し、役割を明確にする事で、より安全性の高く効率的な検査体制となった。これらは職員の余剰な時間外労働の減少につながるとともに職員の教育・研修の時間に充てられ、さらなる安全性の向上に役立つと共に、今後の検査需要の増大にも対応できると期待される。日々の検査をおよび治療を充実させることで、地域を代表する施設となるよう最新の設備と体制をもつ内視鏡センターの設立を目指す。

【リハビリテーション室】

1. 継続したリハビリテーション介入の構築

病棟スタッフとの連携強化

2. リハビリテーション介入時の感染対策強化

COVID-19を主とした感染リスクの患者介入の体制検討継続

3. リハビリテーション室内の安全管理の徹底

治療機器の保守点検

感染状況に合わせた対策検討

4. 健全な経営

充実したリハビリテーション治療に伴う経営の改善

【臨床検査部】

1. ISO 15189 要求事項に沿った品質マネジメントの継続

①臨床検査データの精度向上

②検体検査 TAT 短縮、生理機能検査待ち日数の短縮

2. 医療安全の推進

①外来採血、生理機能検査における患者の安全を高めるための職員への継続的な教育

②検体検査の測定における過誤削減

③インシデント事例の分析による再発防止策の徹底と教育

3. 勤務環境の改善にむけて

①医師の働き方改革を推進するためタスクシフト／シェアの検討および教育

②①を念頭に業務フローの見直しによる効率化と省力化

③適正な職員配置による時間外勤務の削減と適切な休暇取得の促進

4. 有用な検査項目の院内導入の検討・促進

①生化学・免疫検査項目の導入・見直し

②臨床上有用性の高い新規生理機能検査項目の導入

5. 人材育成の強化

- ①専門分野の認定資格取得の奨励
- ②学会での研究発表や論文発表の奨励
- ③学術団体等の研修会への積極的な参加による最新の検査技術の習得

【病院病理部】

1. 病理診断の質の向上

- ①部門内検討会の充実
- ②日本病理学会「ゲノム診療用病理組織検体取扱い規定」に則った検体取扱いの徹底
- ③連続迅速自動固定包埋装置の本格稼働等による TAT の改善
- ④FISH 法検査を用いた分子診断の拡充
- ⑤生検標本のデジタル化（バーチャルスライド化）による既往参照の効率化

2. 医療安全、感染対策

- ①ダブルチェック・トリプルチェックによる診断精度の維持
- ②インシデントレポート作成の励行
- ③病理診断支援システムの更新に併せた病理報告書の閲覧管理の強化
- ④プリオンおよび新型コロナウイルスを含めた感染予防の徹底

3. 環境改善

- ①病院病理部の切り出し室の拡充、倉庫の設置等による作業環境の改善
- ②病理解剖室の害虫駆除の根本的改善を依頼する
- ③各部署におけるホルマリン溶液使用の管理
- ④カンファレンス室の改装、および診断室の再整備

4. 人材育成

- ①積極的な学会発表、学術論文投稿の指導
- ②若手臨床検査技師の細胞診断能力の向上のため定期的部内勉強会を開催する
- ③専門資格取得の推奨

5. 地域貢献

- ①保険医療機関間連携による病理診断業務受託の継続運用

【臨床試験管理室】

1. 安全な治験の運用

- ①治験症例数の確実な確保および治験実施率の向上
- ②院内感染防止と医療安全教育の促進
- ③治験逸脱の分析・評価・改善

2. 治験に関わる円滑な部署間連携の推進

- ①関連部門との連携強化
- ②医師主導治験実施診療科との連携

3. 治験業務の効率化・迅速化

- ①被験者早期組み入れの推進
- ②IRB 手続きの効率化
- ③リモートネットワークの推進

【診療情報管理室】

1. 全科横断的な診療録の抜き打ち監査の継続、多職種による監査及び医師によるピアレビ

ューの実施と各診療科へのフィードバック、講習会等による適切な診療録記載の指導と普及、並びに職種横断的監査に関する検討

2. 紙カルテ貸出減少に伴う業務の効率化
3. 適切なDPCコーディングの支援
4. 院内がん登録及び全国がん登録の業務遂行

【患者サービス室】

1. 関連委員会との連携強化と有機的活動の推進

- ①令和3年度「患者満足度調査」の実施
- ②外来エントランスホールへの年2回季節の装飾展示（七夕飾り、クリスマスツリー）
- ③関連委員会との連携を活かし意見や要望への迅速な対応

2. 意見や要望への迅速な組織的対応と結果の反映

- ①部署で対応した諸内容について、報告書による迅速な情報共有と対応結果の報告
- ②院内各所にあるご意見箱内のご意見を回収し、回答を添えて定期的な院内掲示板及び、病院ホームページへの掲載
- ③「ご意見への対応」関連業務の継続的なブラッシュアップ

3. 利用者相談窓口の活動の強化

- ①医療対話推進者養成セミナー受講者数の増員を推進

4. ボランティア活動再開に向けての体制整備

- ①ボランティア活動再開に向けた準備
- ②ボランティア委員会と活動員との連携強化
- ③メーリングリストを用いた活動員との迅速な情報共有

【看護部】

1. 継続的な質評価と改善活動の推進

- ①看護関連のQM推進
- ②看護要員の効率的活用による生産性と質の向上

2. 質の高い看護師・助産師の人財育成

- ①看護提供体制の見直しによる、職場環境と教育支援体制の向上
- ②特定行為研修修了者が活躍できる環境の整備

3. 働きやすい職場環境の整備－ヘルシーワークプレイスづくり

- ①看護師が本来実施すべき業務時間の確保と効率化の推進
- ②看護職員の夜勤参入の推進
- ③看護職員が活躍できる環境の整備
- ④看護補助者の確保

4. 病院経営、運営への参画

- ①病床の効率的活用
- ②看護職員が関わる加算算定のための仕組みの構築

【薬剤部】

1. 薬剤管理指導業務の推進（質の高い服薬指導と件数の増加）

- ①1670件/月、20000件以上/年

2. 病棟薬剤業務の評価（安全で適切な薬物治療の提案）

3. 薬剤購入費の適正化（ジェネリック医薬品等の安全な導入と使用促進）
4. チーム医療の推進（ICT・AST、がん、緩和、NST、周術期、糖尿病、救急等）
5. 治療薬の安全な管理体制
6. 電子カルテシステムの安全で効率よい運用
7. 専門・認定薬剤師の養成（がん、感染、緩和、情報、救急、栄養、糖尿病等）
8. 薬学部6年制実務実習の充実
9. 部内の災害・感染対策の整備と充実
10. 地域包括ケアシステムをふまえた薬・薬連携の強化（近隣病院、近隣保険薬局）

【栄養部】

1. 栄養部体制変更への適正対応

- ①2021 年度より、患者給食委託条件の変更にに基づき、病院側が食数管理を行う新たな体制となるが、新体制下においても病院給食の運営を円滑に行う
- ②体制変更に伴い病院給食に関する業務配分が増加するが、病棟活動・栄養指導業務の運営も円滑に行う

2. 患者給食の充実

- ①安全・安心な食事提供に努める（衛生管理の徹底・食物アレルギーへの適切な対応）
- ②患者サービスの維持・向上に努める

3. 病棟活動の充実

- ①病棟との連携を図り、栄養管理体制の充実に貢献する
- ②NSTをはじめとした各医療チームとの連携を深める

4. 栄養指導の充実

栄養指導実施件数の維持に努める。

5. 診療報酬改定に対する取り組みの充実

早期栄養介入管理加算、外来化学療法連携充実加算への参画を目指す

8 学園運営体制の整備

大学・病院を支える人材の確保・育成

人材の確保(職員)

- ・学園方針に沿った人材の確保に努める
- ・採用方針の策定
- ・方針に基づく採用の実施・検証
- ・キャリア採用の検討

適正な人員配置(職員)

- ・学園方針に沿った人員の配置、異動の検討

働き方改革の促進

教職員の健康面へのサポート強化

- ・保健センターとの連携により教職員への健康面のサポート強化を図る
- ・保健センターとの連携により長時間労働者への健康配慮と管理を強化する

休暇および時間外労働時間の法令遵守

- ・教職員の年次有給休暇・時間外労働時間の管理の徹底

事務部門の生産性向上のサポート強化

- ・マネジメント力の強化によるチーム力向上へのサポート
- ・IT・AIの活用による効率性向上へのサポート

広報・企画調査室事業計画方針

広報戦略の継続的強化とコロナ時代の新機軸推進

過去3年をかけて進めてきた広報戦略の再構築で基盤整備が一応終了した。一元的な制作体制などで経費の効率的な運用にもつながっている。

令和3年度は、こうした広報媒体の一層のブラッシュアップを図る一方、新型コロナという時代状況に対応した新たな広報を多面的に進めていく。

これにより入学志願者増、病院の収益増につなげる一方、ブランディングの強化策など一連の広報活動を通じて学園の周知・認知向上を図る。

ウェブ媒体の継続的な改善と有効活用

広報媒体の中核と位置づけられるウェブ媒体の戦略的な展開を図る。

大学公式ホームページは、基本的に前年度までの方針を踏襲して改善を進める一方、ウェブ検索で大学に誘導するSEO対策などを積極的に展開する。

病院ホームページは、収益の増加に資するSEO対策のほか、地域連携の一助となる仕組み作りなどを進める。

セキュリティ強化を含むネット環境の基盤整備

大学ホームページのCMS（制作のためのアプリケーション）は平成19年度から使用されており、機能面でもセキュリティ面でも不十分となっている。これを更新しより積極的な情報発信を図る。

あんずネットの継続的整備

利便性・操作性をさらに向上させ、学園内部の情報共有機能を一層強化する。業務の効率化と経費の削減につなげるため、電子申請などポータルサイト機能を順次搭載していく。

新型コロナの時代と共存する広報戦略の推進

新型コロナウイルスの蔓延で、従前の広報活動は大きく制限されている。

オープンキャンパス等、大学来訪が不可能な場合などに備え、ウェブで完結する広報の方式を検討し実施する。ここでも多様な新技術を積極的に導入する。

活字媒体にもAR(拡張現実)の技術を取り入れ、リアリティあるキャンパス体験で受験生の興味を喚起するなどの試みを進める。

新たな方式による地域貢献・開かれた大学への取組み

大学や病院に市民を迎えて行なう公開講演会など、従前に代わる新たな地域貢献・生涯教育の方式を検討する。新型コロナの影響が続いても機能するネットでの講座配信や地元ケーブルテレビ局と連携した講座の放送なども検討する。

9 財務体質の強化

- ・令和3年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の収束が難しいと想定される中、学園の収入の柱である医療収入の大幅な増収は見込めない。
今年度は学園の事業計画に基づく施設設備計画を十分に把握し、予算管理に努め収支改善を行う。
- ・令和3年度においても医学部新講義棟建設工事、中央手術室増築工事等の大型工事が計画されているため、資金管理を慎重に行い効率的な運用に努める。

学校法人 杏林学園

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2

TEL 0422-47-5511 (代表)